国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

令和２年７月１７日
中部地方整備局
名古屋港湾事務所

伊勢湾に流れ込んだ大量の流木等漂流物を回収中

～海洋環境整備船「白龍」で令和2年7月豪雨の漂流物を回収～

令和２年７月豪雨の影響で、河川から伊勢湾内に流木をはじめとした大量の漂流物があり、湾内の航行安全及び環境保全のために、海洋環境整備船「白龍」（名古屋港湾事務所所属）により回収を行っているところです。

「白龍」は中部地域の経済を支える港湾を利用する船舶や「食」を支える漁船などが漂流物により航行不能とならないよう、また湾内の環境が悪化しないよう、日々愛知県沖・三重県沖の数千ヘクタールの海域の点検・掃海を行っています。

漂流物の回収は７月７日から７月１６日までの９日間の作業で昨年度の１年分の回収量（260m3）にほぼ近い242m3を回収しています。今後も降水による流木等漂流物の伊勢湾内への流入が懸念されるため、「白龍」は継続して海域の点検及び掃海を行っていきます。
（参考資料－１～３）

【参考】
「白龍」は、航行船舶の安全性の確保と海洋環境保全のため、伊勢湾及び三河湾の一般海域（約1,800km2）の漂流物の回収を行うと共に、油流出事故など災害発生時の油回収等を行う船舶です。（参考資料－４）

○配布先　中部地方整備局記者クラブ、中部専門記者会、名古屋港記者クラブ、
岐阜県政記者クラブ、三重県政記者クラブ、四日市市政記者クラブ、
港湾新聞社、港湾空港タイムス、日本海事新聞社、海事プレス、
マリタイムデーリーニュース

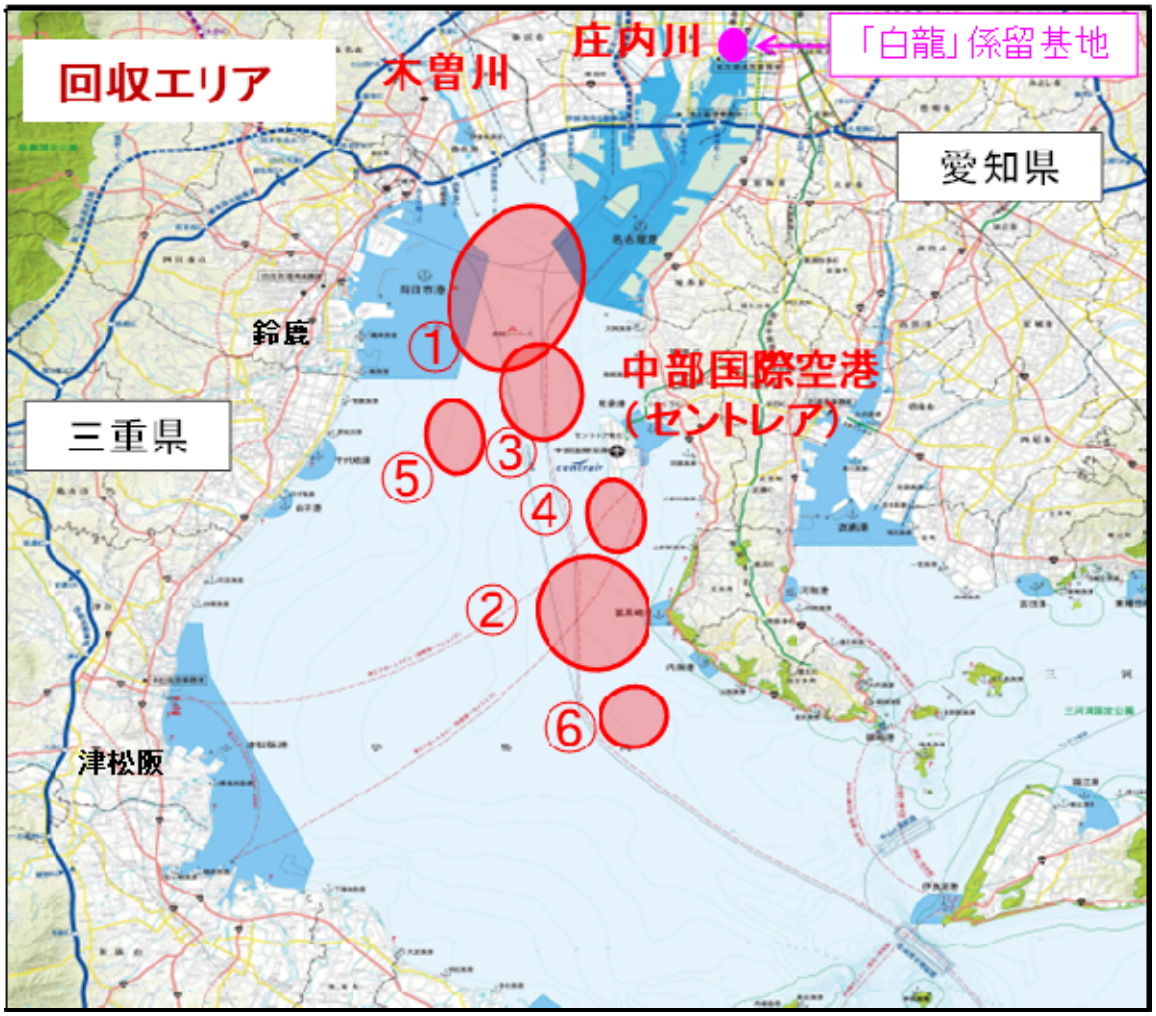
○問合せ先

国土交通省　中部地方整備局　名古屋港湾事務所
副所長　板生　考司（いたお　たかし）
海洋環境・防災課長　伊藤　正人（いとう　まさと）
Tel　052－651－6791　Fax　052－651－3801
※写真の提供希望の場合もお知らせください

参考資料－１

【海洋環境整備船「白龍」漂流物回収位置及び回収量】

〇活動場所及び活動記録



日時	主な回収エリア	回収量				点検・掃海面積（ha）	備考
		漂流物 ※流木以外（m3）	流木（m3）	合計（m3）	（参考）流木本単位		
7月7日（火）	①	25	15	40	20	3,000	
7月8日（水）	①	25	15	40	20	3,000	
7月9日（木）	①	25	17	42	30	3,000	
7月10日（金）	②	25	20	45	30	6,000	
7月11日（土）	③	25	7	32	10	6,000	
7月12日（日）	④	0	13	13	20	8,000	
7月13日（月）	②,⑤	1	6	7	4	7,000	
7月15日（水）	①	0	20	20	40	3,000	
7月16日（木）	⑥	1	2	3	6	10,000	※速報値
合計		127	115	242	180		
		242			―		

※7／14は荒天のため休船

参考資料－２

【活動写真】

漂流物の塊に回収に向かう「白龍」（7 月 10 日）

「白龍」のクレーンによる流木の回収作業（7 月 10 日）

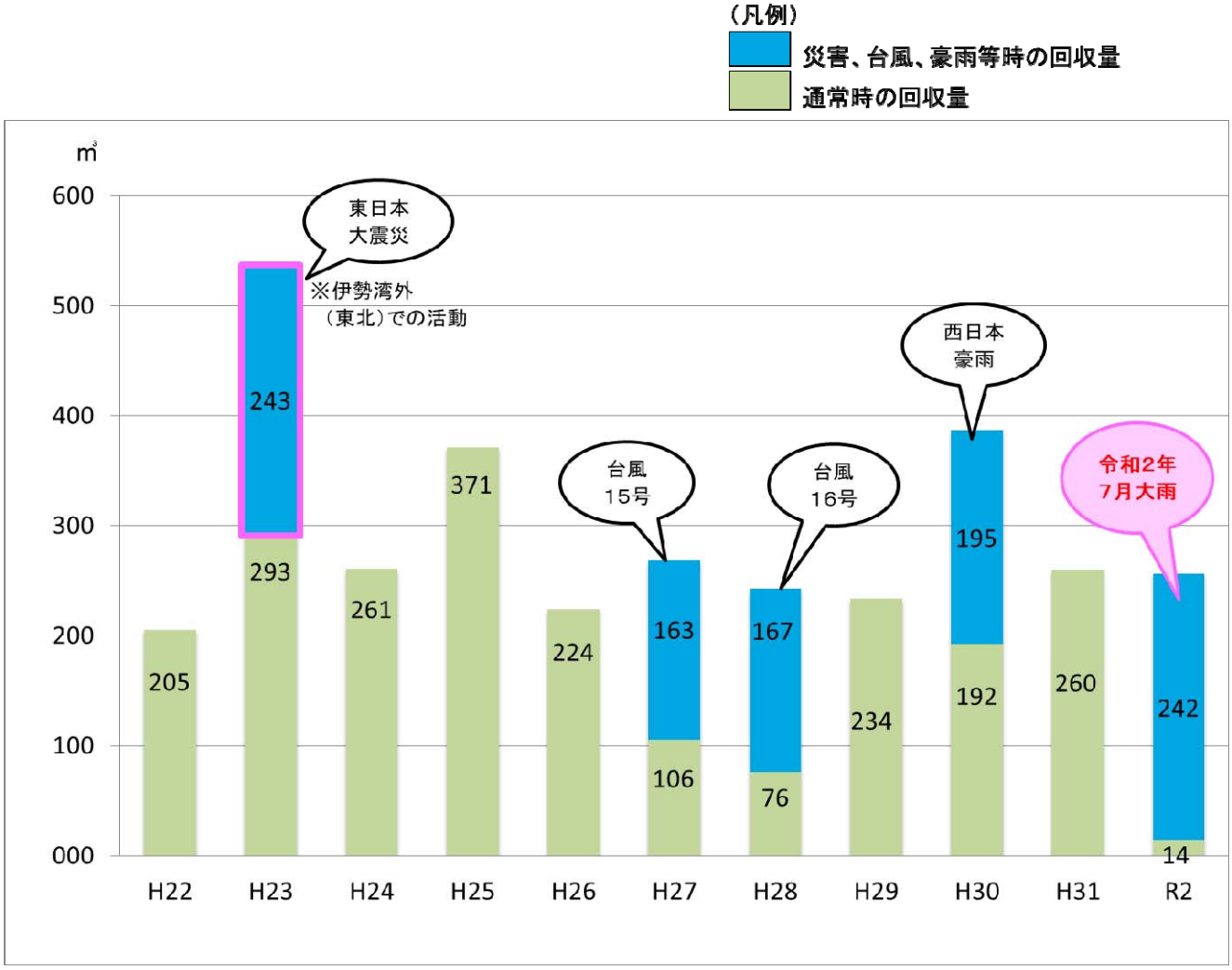
潮目に集まる漂流物を船体でまたぎ、すくい取って回収する「白龍」（7 月 11 日）

「白龍」のデッキに積まれた流木（7 月 10 日）

「白龍」のスキッパー（※写真中央黄色のかご）により海面からすくい取られた流木等（7 月 11 日）

（参考）潮目に集まる漂流物（7 月 11 日）

【参考　年度別回収量】


（凡例）
災害、台風、豪雨等時の回収量
通常時の回収量
㎥
600
500
400
300
200
100
000
東日本
大震災
※伊勢湾外
（東北）での活動
台風
15号
台風
16号
西日本
豪雨
令和2年
7月大雨
243
293
205
261
371
224
163
106
167
76
234
195
192
260
242
14
H22
H23
H24
H25
H26
H27
H28
H29
H30
H31
R2

海洋環境整備船 「白龍」の概要

「白龍」の行う業務

○通常は、伊勢湾・三河湾の海面の漂流物（浮遊ゴミ）の回収作業を行う

○油流出時には、速やかに流出現場に向かい油回収作業を行う

○伊勢湾の環境メカニズム解明のために、水質及び底質の定期的な観測を実施する

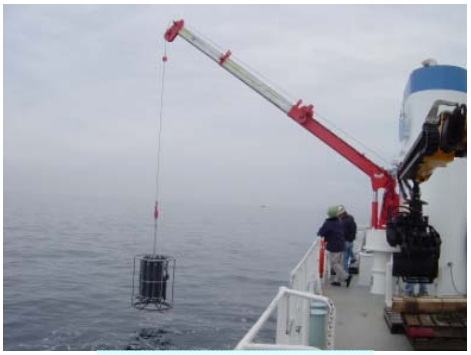
○大規模地震・津波発生時の航路啓開を行う

担務海域
伊勢湾・三河湾 (1,800km2)

流木回収状況

漂流物回収状況

油回収装置



環境モニタリング

回収ゴミの陸揚げ